製品 REPORT

わずか3時間で40台切替 島設備の常識が変わる

「はずして、まわして、くるりんぱ」の簡単手順で、スマパチ・スマスロの短時間切り替えを実現。島設備の柔軟な運用を支える。

特許を持っているアドバンスしか作れない「セルフリムーヴ」

SELF REMOVE
セルフリムーヴ

特許取得済み



3つのZEROを実現

工期ゼロ	1台の変換作業に要する時間は僅か3分足らず
保管部材ゼロ	変換作業に必要な追加部材が不要
外注費ゼロ	ホールスタッフでの変換が可能

ある導入ホールでは、40台の切り替えをわずか3時間で完了した実績がある。まとまった台数の変更にも対応できることは、機種構成の見直しやリニューアルを進める際の大きな利点だろう。

また、作業手順が簡潔なため、初めて作業に携わるスタッフでも対応しやすい。設備の仕様だけでなく、実際の現場で扱いやすいことも、日々の運用を考えるうえで重要な要素となる。設備を選ぶ際には、導入時の条件だけでなく、変更が必要になった際の作業方法や作業負担も考慮したい。導入後の運用まで視野に入れることが、設備を長く活用するうえでのポイントとなる。

導入時だけではなくその後の運用も見据える

『セルフリムーヴ』の特長は、専用の変換枠を上下反転させる独自構造により、スマパチ・スマスロの仕様を切り替えられることだ。作業は、遊技機を取り外し、変換枠を固定する4本のビスを外して上下反転させ、再び固定した後に遊技機を設置するだけ。「はずして」「まわして」「くるりんぱ」というシンプルな手順で、1台あたりわずか3分で切り替えることができる。

専用枠のみで完結できるため、追加の変換部材を保管する必要がなく、ホールスタッフ自身で作業できるため、専門業者への依頼に伴う費用も抑えられる。この仕組みにより「工期ゼロ」「保管部材ゼロ」「外注費ゼロ」と3つのゼロを実現している点も強みだ。

市場の変化を見据え島設備にも柔軟性を

遊技機のトレンドが変化するなか、ホールには機種構成だけでなく、島設備にも柔軟性が求められる。今後、パチスロに近いゲーム性や機能を備えたパチンコ機が支持を集めれば、パチンコとパチスロを組み合わせたコーナーや、ジャンルの垣根を越えたシリーズ機コーナーなど、新たな島構成が生まれる可能性もある。一方、パチンコの人気が高まれば、パチスロ中心の構成からパチンコへと比重を移すことも考えられる。

しかし、こうした市場の変化を正確に予測するのは難しい。だからこそ、変化のたびに大掛かりな設備工事を行うのではなく、あらかじめ対応できる環境を整えておくことが重要だ。設備の仕様に営業方針を縛られにくい環境を整えることは、機種構成の選択肢を保つうえでも意味がある。

スマパチ・スマスロを切り替えられる『セルフリムーヴ』は、機種構成の変更に伴う作業負担やコストを抑え、営業戦略の幅を広げる設備といえる。市場の変化に備え、島設備を長期的に活用するための選択肢として、導入を検討する価値は大きい。



設置中のスマスロ機を外す。



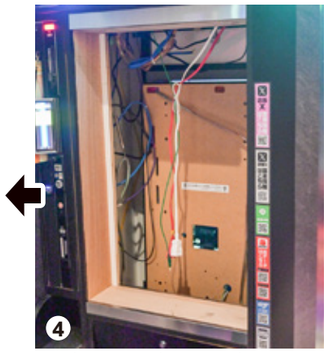
4本のビスおよび木枠（セルフリムーヴ）を外す。



木枠を上下に反転。これにより木枠がスマスロ仕様からスマパチ仕様に。



スマパチ機を設置し、e⇔L切り替えが完了。所用時間は約3分。



再び木枠及び4本のビスを取り付け。

『セルフリムーヴ』紹介動画
必見!

Before





After

導入店 REPORT

20台の切り替えを実証 広がる互換島の可能性

《第一プラザ八潮店》が『セルフリムーヴ』で20台のPS切り替えを実施。約2時間で完了した作業性と今後の活用構想に迫る。

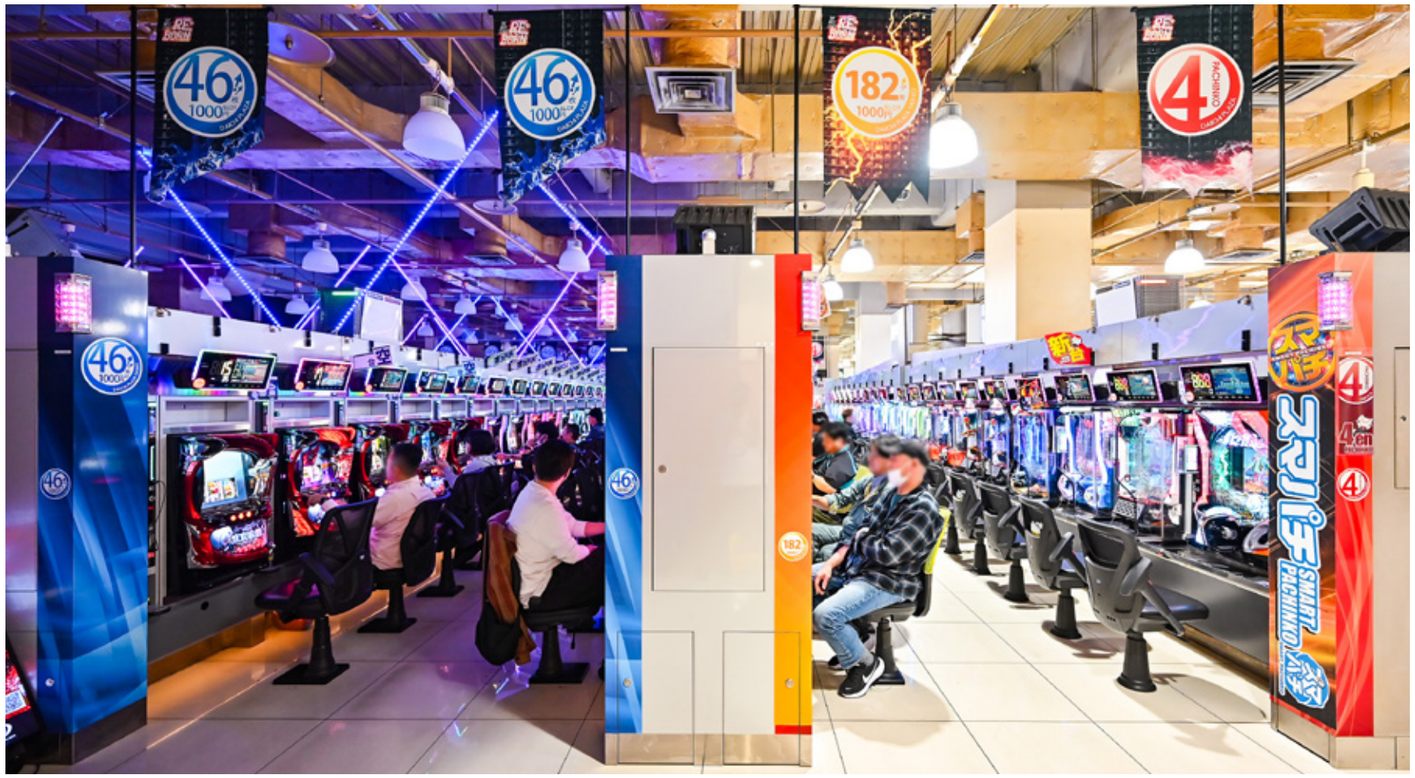
埼玉県八潮市の《第一プラザ八潮店》では、2023年にスマート遊技機専用島『セルフリムーヴ』を60台導入した。スマート遊技機の普及も進むなか、将来的な機種構成の変化を見据え、島設備の段階からパチンコ・パチスロ市場の変化に柔軟に対応できる環境を整えたいという考えのもとでの先行投資だった。

導入当初はスマパチ20台、スマスロ40台で運用していたが、26年7月の店舗リニューアルでPS切り替えを実施した。同店の菅野裕文店長は「導入当初は市場環境の変化が乏しく、前任の店長もなかなか活用しきれていなかった状況があったと聞きます。しかし昨今は圧倒的なパチスロトレンドですので、店長着任から3ヵ月でスマスロへの切り替えを決断しました」と話す。





導入当初はスマパチで運用していたが、昨今のパチスロトレンドに合わせ、7月のリニューアルで1,000円182枚パチスロに切り替えを実施（写真上）。



『セルフリムーヴ』は現在、1,000円46枚パチスロ（40台）、1,000円182枚パチスロ（20台）で運用中。

20台の切り替えを約2時間で完了

スマパチからスマスロへの変更では、周辺環境の作業も含めて20台の切り替えを実施。スタッフ約5人で対応し、約2時間で作業完了したという。遊技椅子の位置調整は別途必要だったものの、『セルフリムーヴ』を用いた切り替え作業そのものは、通常の遊技機入替と大きく変わらない感覚で進められた。

特筆すべきは、初めて作業に携わったスタッフが迷うことなく作業を終えられたことだ。設備の切り替えというと、専門的な作業や大きな負担を想像しがちだが、現場で手順の分かりやすさと作業の簡単さを実感した。設備の柔軟性は、切り替えが可能であるという仕様だけでは十分とはいえない。実際に作業するスタッフが手順を理解し、無理なく対応できることも、店舗が継続的に活用するうえで重要な要素となる。



上部に物置スペース、ユニット下に飲み物置き場を完備。

菅野店長は「市場の変化に合わせて機種構成を見直す際も、現場の負担を抑えながら対応できることは、店舗戦略上の大きな強みになります」と評価している。

また、導入後は遊技島周りのトラブルも特になく、安心して使用できているという。切り替え作業の手軽さに加え、日常の店舗運営においても支障なく活用できていることが、今後の柔軟な機種構成を考えるうえでの安心材料となっている。

PS混在島から全台導入構想まで

今後の『セルフリムーヴ』の活用については、パチンコ市場が好転すれば、再びパチンコへ切り替えることも想定している。さらに、興味を寄せているのが、パチンコとパチスロを組み合わせた島構成だ。例えば、今年、パチンコ・パチスロともに好評を博した『ソードアート・オンライン』シリーズをまとめたコーナー展開や、通常時フラグや設定搭載など、パチスロに近い機能を搭載したパチンコが登場すれば、その機種特性に応じて遊技機間の回遊を促すレイアウトも検討する余地が生まれてくると同店では見ている。

また、大型レイアウト変更や増床リニューアル、既存島設備の老朽化に伴う更新に『セルフリムーヴ』を充てることも視野に入れている。菅野店長が理想として挙げるのは、全台に『セルフリムーヴ』を導入する構想だ。「全台が切り替え可能となれば、店舗全体の機種構成を見直す際の選択肢が大きく広がります。実現までのハードルはかなり高いですが、段階的に増やしていければ嬉しいです」（菅野店長）。

同店では『セルフリムーヴ』の柔軟性を最大限活用していく考えだ。

INFORMATION

第一プラザ八潮店

埼玉県八潮市／720台（P460・S260）



『セルフリムーヴ』で臨機応変な機種構成を実現できる体制を構築していた同店。今回の切り替えでパチスロ比率を高めたことで、売上向上を実現した。

www.newgin.co.jp/advance/ ニューギン・アドバンス 03-5818-2571